

[演題13]

東京で生息が確認されたネツタイトコジラミ

○小松謙之¹⁾, 中村春美¹⁾, 藤井啓一²⁾,

¹⁾株式会社シー・アイ・シー, ²⁾株式会社沖縄シー・アイ・シー

Distribution of tropical bedbug *Cimex hemipterus* in Tokyo, Japan

○Noriyuki KOMATSU¹⁾, Harumi NAKAMURA¹⁾, Keiithi FUJII²⁾

¹⁾Civil International Corporation, ²⁾Okinawa Civil International Corporation

ネツタイトコジラミ *Cimex hemipterus* は tropical bedbug と呼ばれ、世界の熱帯、亜熱帯地方に広く分布し、トコジラミ *C. lectularius* 同様、ヒトに刺咬被害を起こす重要な家屋害虫である(大森, 1935)。東南アジアの発生地では有機リン剤抵抗性が報告され(Tawatsin et al., 2011)、有機リン剤を多用する我が国では防除を失敗する可能性がある。しかし、本種は特殊な場合を除いて温帯あるいは寒帯には生息せず、日本では沖縄県那覇市にて発生が報告されているものの、日本本土では恒常的な発生が確認されていない(大森, 1935)。上村(1974)は、兵庫県神戸市の港湾地域でトコジラミとネツタイトコジラミを確認しているが、これらは南方地域との貿易によって侵入したものと推測し、それ以降、日本国内での発生は報告がなかった。

小松ら(2016)は、2014年に沖縄県でのトコジラミ防除の増加をうけて2015年に沖縄県下で発生するトコジラミ類を調査した。その結果、約80年ぶりにネツタイトコジラミの発生を確認し、今後、日本本土への侵入を示唆している。我々は2016年1月から12月まで、全国の(株)シー・アイ・シーおよび関連会社にて調査・防除が行われた物件よりトコジラミ類を集め、その動向を調べた。その結果、全国60物件の検体を調査し、7件でネツタイトコジラミの発生を確認した。その内訳は沖縄県5件、東京都2件であった。沖縄県は2015年に3件、2016年に5件と増加した。東京都でははじめてネツタイトコジラミが発見された。発生が見られた建物用途は、沖縄県は4件がホテル、1件は住宅となり、住宅内への拡散がはじまっている事が予想された。東京都ではいずれもホテルであったが、発生状況はトコジラミと変わらず、客室内広範囲に生息が確認された。防除はトコジラミと同様に、加熱乾燥車・スチーマー・冷凍・薬剤の方法で防除が可能であった。しかし、いずれも薬剤を主体とした防除ではないため、薬剤に対する感受性は不明のままである。

今後、国内で発見されたネツタイトコジラミ数系統を用い、薬剤抵抗性に関して調査の予定である。